

地域社会としての中国社区

——Outsider Art のアクターネットワーク——

石岡亜希子

1 目的

本報告では、中国 N 市の Outsider Art スタジオを事例に、ポルノ・迷信・暴力・反体制的な表現が政府によって禁止されている中で、ヒトやモノという多種多様なアクターがどのように集まり、地域社会を構築しているかを考察する。スタジオの概要を示せば、次のようになる。現代アーティスト G 氏が代表を務めるスタジオは、2 カ所ある社区服务中心（コミュニティサービスセンター）内に設置されており、精神や知的に障害のある人々が主に絵画を制作している。ここで想起されるのは、主流／非主流、国家／地域社会、健常／障害という対立構造や、「障害の文化」の——盲人文化を例にすると——①従属文化——「盲人」と〈名づけ〉られる、②対抗文化——〈名づけ〉への反発、③固有文化——〈名のり〉という三層構造である。地域社会がつくられていく過程を明らかにすることによって、障害者を取り巻くこのようなコンフリクトを超克することが可能になると考える。

2 方法

報告者が 2015 年以来、スタジオを中心に行ってきたフィールドワーク記録、展覧会カタログ、インターネットで収集した情報をデータとして用いる。そして、中国 Outsider Art のアクターを追いかけるために、ブリュノ・ラトゥールのアクターネットワーク理論の「3 つの手立て」を用いる。

3 結果と結論

現代中国が国家と社会、都市と農村等の二項対立的枠組みでは捉えきれないということは、これまでも指摘されてきた。しかし、社区服務や社区福祉に関する既存の研究は、政治・経済のオルタナティブとして人間を重視するようになったという歴史的経緯から、関係者に注目し、提供しているサービスや課題について議論するものが多い。Outsider Art のアクターに着目した本研究では、アクターネットワーク理論に基づくことで、地域社会がつくられていく過程が確かめられた。作品画像が掲載された展覧会カタログや報告書が、国境を越えて広がっていくことは、地域社会が必ずしも国家の下位に位置するものではなく、自立性をもつものとして理解される。また、障害の普遍モデル——障害当事者だけでなく、高齢者や農村出身者などとの連帯——が、展覧会を通して模索され得ることが示された。

文献

Latour, Bruno, 2005, *Reassembling Ethnography: Actor-Network Theory and Sociology*, Oxford ; New York : Oxford University Press. (= 2019, 伊藤嘉隆訳『社会的なものを組み直す—アクターネットワーク理論入門』法政大学出版局.)
Seio Nakajima, 2013, "Re-imagining Civil Society in Contemporary Urban China: Actor-Network-Theory and Chinese Independent Film Consumption," *Qualitative Sociology*, 36(4): 383-402.
杉野昭博, 1997, 「「障害の文化」と「共生」の課題」(杉野昭博他編)『岩波講座文化人類学 第 8 巻 異文化の共存』岩波書店.